

災害対策本部長
堀内 龍也 殿：

今回の震災に対し災害対策本部を設置して頂きましてありがとうございます。

現在把握している範囲の情報で報告させていただきます。

ニュース等でもご覧になったように岩手の三陸沿岸はかなり酷い状況で、岩手県立山田病院、岩手県立大槌病院、岩手県立高田病院は、被災による病院機能停止で診療が出来ない状態です。岩手県立大船渡病院、岩手県立釜石病院、岩手県立宮古病院は、何とか医薬品等の供給を受けて診療を行っているようです。

岩手の会員の安否ですが現在十分に確認が出来ていないのが実情です。

沿岸地域以外は地震による直接的な大きな被害はなかったものの、中央からの医薬品の流通が滞り、医薬品が不足している状態が続いています。震災直後は停電が大きな要因でしたが、現在はガソリンや軽油の不足による物流の停滞です。少しずつは改善しているようですが、欠品が続き納入状況は決して満足のいけるものではありません。

盛岡では、ガソリン・軽油が絶対的に不足しております。このガソリン不足により、沿岸被災地への救援にもかなりの支障が出ています。卸からの医薬品の配達がガソリン不足のため1日1回となっており、病院も保険薬局も不便を感じております。また、当院の職員も通勤に使用している車にガソリンを満足に入れることが出来ず、徒歩や自転車、やっと動き出した電車や軽油不足のため運行が制限されているバスなどを利用して出勤しています。長期になるとかなり疲弊してくることが予想されます。

当院では、災害支援チームを組織し、避難所等を巡回診療しておりますが、沿岸の被災地域ではニュースの映像で見るとより実際かなり劣悪な環境で過ごしているようです。また、避難所では慢性疾患等に使用する医薬品が不足しており、今後は心配されます。

それ以外には、衛生状態が良くありませんので手指消毒剤、マスク、紙おむつ（大人・子供）、衛生用品、粉ミルク、風邪薬、うがい薬などが必要のようです。

現在、ガソリンも逼迫しております。自己完結型の支援があれば是非お願いしたいと思います。

本来、岩手県病薬が県下病院の様子を確認し、取りまとめて支援をお願いしなければならないものとは思いますが、我々も現場を抱えており対応が出来ない状況にあります。

会員病院から直接状況・援助等をお願いするように連絡いたしますので、何卒、ご対応の程、宜しく願いいたします。

岩手県病院薬剤師会
工藤 賢三